事後抄録

臨床懇話会
アプリを使った糖尿病診療

研究部は4月11日、臨床懇話会を協会会議室とWEB併用で開催。西台駅前ますやま内科糖尿病クリニック院長・増山敦氏が講演し、85名が参加した。事後抄録を掲載する。

講師の増山氏

糖尿病診療の目標は、単なるHbA1c低下ではなく、合併症予防とQOLの維持である。近年、薬物療法の進歩に加え、持続血糖測定（CGM）の普及によって血糖変動の可視化が可能となった。しかし、血糖波形が見えても、その原因となる日常の食事内容や生活行動との結びつきは、外来診療の中で十分に整理されていない。特にHbA1cが比較的良好な段階では、空腹時血糖よりも食後血糖の寄与が大きく、より良いコントロールを目指すには食後高血糖への介入が重要となる。

一方で、実際の外来では食事指導が一般論に終始しやすく、患者ごとの具体的な行動変容につながりにくい。そこで、食事写真、CGM、オンライン栄養指導を組み合わせた食事管理アプリ「グルコースフライト®（GF）」を活用し、食事・血糖・指導を一体化した支援を行っている。「GF」では、患者が食事を記録し、食後血糖推移を確認し、管理栄養士とともに具体的なTODo（行動目標）へ落とし込むことで、「気づき→実行→振り返り→継続」のサイクルを日常に組み込むことができる。

症例では、同じ〝甘いもの〟でも血糖反応に個人差が大きく、一律の制限ではなく、その人に合った介入が必要であることが示された。また、当院で「GF」を導入した2型糖尿病患者25名の後ろ向き観察では、HbA1cは開始時6・8％から8週後6・4％へ、体重も70・1kgから69・0kgへ有意に低下した。

「GF」は、食事管理における一般論を個別解に変え、管理栄養士を含めた多職種介入の質を高めるツールとなりうる。今後は、CGMで得られる膨大な日常データをAIで整理・要約し、血糖悪化前の早期介入につなげることで、糖尿病診療はHbA1c中心の結果評価型から、血糖波形をデザインする伴走型医療へ発展していく可能性がある。

医療ソーシャルワーカーが相談に応じます
医療費相談室
TEL 045-313-2225
次回は 6／17（水） 相談無料 14時～17時
事前予約も承ります。地域医療対策部へご連絡ください（TEL045-313-2111）
※通話料がかかります。

主張
第71回定時総会を迎えるにあたって

今年の神奈川県保険医協会の第71回定時総会は、6月21日午後1時30分より横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ5階「日輪」にて開催される。

議事に先立ち開催される記念講演では、講師に熊本学園大学経済学部教授であるカーク・マスデン氏をお招きし、「メディアを通して見えてくる日本」をテーマにご講演いただく。一昔前は、日本は世界でも先進国として、また、アジアの盟主としての地位があったが、ここ最近はグローバル社会の中で少し影が薄いように感じる。メディアを通じて見えてくる日本がどのような立場に映ってくるのか、カーク・マスデン氏の講演を待ちたい。

総会議事は、協会活動の年間総括や方針を、我々執行部が会員の先生方に直接ご説明させていただける貴重な機会である。2026年度は診療報酬の改定年度であり、第1号議案「2025年度活動報告の承認を求める件」では「診療報酬改定に向けてプラス改定・不合理是正を勝ち取る運動」を展開したことを最重要事項とした。そのほか、健康保険証の復活を求める廃止反対運動、オンライン資格確認義務化撤回に向けた活動、物価高騰・賃上げ対応の対策、医療の営利産業化の阻止、当協会発祥の「医療費の窓口負担『ゼロの会』」の活動推進など、力を入れて取り組んできた活動を改めて提示させていただく予定だ。

第2号議案「2026年度活動方針案の件」では、今次改定で医療の充実分が実質0・1％に留まり、医療機関の経営危機が深刻さを増している危機的状況の中、「開業保険医の経営と生活を守る」という協会の設立趣旨に立ち返ることを提案させていただく。医療機関の経営再建や国民生活の格差是正の実現には、皆保険制度の堅持が必須である。社会保障の一つである医療保険制度が所得再分配機能として果たす役割を、我々医療者が雄弁に語ることを通じて、患者・国民の理解を広げていくことが重要だ。さらに第4号議案では、これらの活動方針に基づく2026年度の予算案を提案させていただく。また、毎年恒例の功労者や敬寿会員の表彰式、福引会などの企画も予定している。

是非、総会に足を運んでいただき、今後の協会事業の維持・発展に向けた議論を尽くそうではないか。会員の先生方のご参加をお待ちしている。

理事会だより

第32期第14回理事会　3月12日（木）
〈役員28名、出席24名（うちWEB11名）〉

【議長報告】

「2月度の活動のまとめと当面の課題」では、討論のポイントにおいて、2026年度診療報酬改定が満足な改定とはかけ離れた内容であったことに対し、どのように運用改善を訴えていくか、また、「一部保険外療養」創設によるOTC類似薬の患者負担増を、世論にどのように訴えていくかを議論した。

診療報酬改定により、事務局への問合せが激増することで事務局の円滑な業務が妨げられないよう、またひっきりなしに電話での問合せが寄せられてくることによる事務局員の過大なストレスに対し、適切な対策を取る方法が議論された。具体的には▽電話自動応答、▽電話回線の増設、▽折り返し専用電話の導入、▽改定特設ページの機能充実、▽電話対応時間の変更―などを行うことが承認された。

その他、保団連理事会報告や、理事の欠員に伴う推薦、理事懇談会の日程、庶務事項などについて承認を行った。

（議長・竹下㊐）

第32期第15回理事会　4月9日（木）
〈役員28名、出席24名（うちWEB8名）〉

【議長報告】

中東情勢の影響でグローブなどの医療用材料が手に入り難い現状を踏まえ、どうアクションを取るかを議論し、県と国へ備蓄の放出・補助金などでの対応を求める要請書を出すこととなった。また今次診療報酬改定の不合理な点を新点数研究会などで問題化し、会員の声を集めて改善要求運動に繋げることを共有した。

OTC類似薬への追加負担に対しては、反対する患者署名を宣伝行動と会員を通して集め、国会へ提出することを提案した。

年度予算案、評議員会・総会の提案、保団連専門部員・委員の推薦について提案があり承認された。

刻一刻と変わる中東情勢による医院経営への影響に対応すべく、会員のために協会としてできることを迅速に行うことの大切さを感じた理事会であった。コロナ禍での緊急時対応も振り返り、協会として医科・歯科一丸となって対応していきたい。

（議長・二村㊍）

第32期第16回理事会　4月23日（木）
〈役員28名、出席23名（うちWEB8名）〉

【議長報告】

中東情勢の緊迫化による原油価格の高騰や供給不安で、医院経営にも影響があり、特に一部の歯科診療所で医療用手袋の不足が懸念されている。まずは早急に歯科会員への実態調査を行い、対応を検討することとした。

報告事項は、地域医療対策部の在宅医療・介護セミナー、公害環境対策部からの日本外国特派員協会の記者会見、研究部の市民公開講座について、セキュリティー委員会、保団連理事会など。

そして、来たる定時評議員会で提案する活動報告案・方針案の確定、定時総会も含めてのスケジュールを確認した。既に事務局業務に一部導入されているというAIの活用についての意見も出された。

（議長・千葉㊎）

珍しさを数値化 t検定の見ているもの
臨床医学統計セミナー

講師の山本氏

学術部は4月25日、臨床医学統計セミナー「とことんt検定―統計は魔法なのか、実際の仕組みを知ろう」を開催。協会会議室とWEBを合わせて30名が参加した。講師に横浜市立大学の山本紘司氏（医学部臨床統計学・主任教授）を招き、平易な数式を用いてt検定が本質的には何を見ようとしているかを解説した。

氏は本来、臨床試験を複数回試行すれば観測結果が常に一致することはありえず、必ず“バラツキ”が生じると説明。2群間の平均値の差を判定するt検定についても、その差が毎回変わるはずだとした。

その上で、真の結果を「平均値に差がない（差は0）」と仮定し、今回観測された結果がどのくらい珍しいかを数値化（“今回得られた2群間の平均値の差”÷“平均値のバラツキ”）し、それをもとに確率（p値：probability value）を求めて、一定基準（慣例的に5％）を下回れば「有意差がある」とする、t検定の論理を解説。他の検定方法についても同じような考え方をしているとし、仮説検定に通底するイメージを感覚的に伝えた。

活動報告 quick reports